須高保護だより

第８号
平成31年３月１日
発行　須高地区保護司会
編集　総務部

長野県更生保護大会　　須坂市文化会館メセナホール

ご挨拶

長野県保護司会連合会長　小林　聖仁

須高地区保護司会の皆様には、平素より更生保護活動全般にわたり、熱心なる思いを込めて取り組まれておりますことに改めて敬意を表します。

さて、わが国の犯罪情勢を見ますと、刑法犯の認知件数は減少傾向を示しておりますものの、凶悪事件の発生が後を絶たないうえ、いわゆる振り込め詐欺やストーカー犯罪、児童虐待事件が増加するとともに、窃盗や覚せい剤事犯の再犯が問題となっている中で、法務省では再犯防止を重要課題として、再犯防止推進計画を定め推進しています。長野県におきましても関係機関団体や更生保護団体が連携強化を図りつつ、これらの取り組みが進められているところです。

ところで、昨今の世情は、少子高齢化、人口減少、情報手段の変化など、移り変わりが激しく、混沌とした状況にあります。このような社会変化の中での更生保護活動が今までの活動で良いのかどうか考えさせられます。特に再犯防止については、保護司会をはじめ更生保護団体のみの活動では限界があります。行政機関との連携は勿論のこと市民の理解と協力無しでは進めることも出来ません。こんな時だからこそ更生保護サポートセンターの果たすべき役割が重要と思います。

何故に犯罪や非行を犯してしまったのかを想んみれば、そこに住む者の一人として保護観察対象者の自業自得とは言い切れません。更生保護活動こそ「お互いに思い遣ることの出来る街づくり活動」だと思います。その意味でも関連団体の皆様や一般市民にも更生保護活動に理解と協力を頂けるように粘り強く頑張りましょう。

最後になりましたが、須高地区保護司会の益々のご発展と関係皆様のご健勝をお祈りしてご挨拶と致します。

須高地区保護司会

会長　竹前　郷史

近年、社会情勢や家族のあり方が様々変貌する中で、覚醒剤、児童虐待、飲酒運転、悪質な交通犯罪、特殊サギ等、処遇が難しい対象者が増え、人と人との関係が希薄化し、ゆがみが生じています。保護司を取り巻く環境は年々と厳しくなり、保護司活動の領域も年々広がっていく傾向にあります。犯罪のない地域社会の実現のために、住民の防犯意識を高揚することが必要です。この様な活動を円滑かつ効率よく進めていくために保護司が駐在する「更生保護サポートセンター」が必要になり、三月中には発足させたいと考えています。更生保護は皆様のお力を得ながら、犯罪や非行をした人を地域の中で適切に処遇することにより、その再犯を防ぎ、立ち直りを助けるとともに地域の犯罪、非行を図る活動です。社会を明るく安全、安心のために、地域の事情を理解し関係者各位のお力が必要かと思います。

須高地区更生保護女性会

会長　関谷　庸子

二〇一八年の世相を表す漢字は〝災〟が選ばれました。確かに日本のあちらこちらの各地で、災害が起きた年でした。年が明けて又々九州北部で地震が起き、今年こそは、大きな災害のない平穏な年でありますよう、願うばかりです。さて皆々様には、お健やかによき新年をお迎えのことと存じます。女性会の皆様にはいろいろな活動に御参加いただき感謝いたしております。又昨年は県更生保護大会が須坂市文化会館で行われました。女性会の皆様には準備から大会当日までお手伝いをいただきありがとうございました。社明運動、作文コンテスト等の参加も、保護司の皆さんとの交流が出来ましたこと、うれしく思っております。これからも関係機関の皆さまと心をひとつにして地域の安全・安心のために活動を続けて参りたいと存じます。いつの年か世相を表す文字が〝幸〟か〝福〟になって欲しいものと思うばかりです。本年もどうぞよろしくお願い致します。

須高地区更生保護協力事業主会

会長　小林　昌之

皆様には、当事業主会の運営にご協力ご支援をいただいていることに、お礼申し上げます。

昨年（平成三十年）九月一日以降、協力事業主（雇用主）として長野保護観察所への登録に係わる手続きが変更となりました。大きな変更は、新規登録時に事業主及び役員について、警察への暴力団関係照会を行うことへの同意をいただく「誓約書」が必要となった点です。すでに登録いただいている事業主の場合は、今後「刑務所出所者等就労奨励金制度」による支給対象となる雇用があった際に、同様に暴力団関係の照会同意が必要となります。変更点や手続きに関する資料は、事業主会事務局もしくは長野保護観察所までご連絡をお願いします。

また、公共職業安定所に出所者の求人を行う際には、通常求人とは別となる「刑務所出所者等就労支援事業専用求人」の申込みが必要となります。ご注意をお願いします。

平成30年度「社会を明るくする運動」須高地区作文コンテスト　受賞者

◎須高コンテスト

◆小学生の部

▽**最優秀賞**　「あいさつの力」三浦隼人＝豊洲４

▽**優秀賞**　「人権について」青柳日菜希＝高甫６　「あいさつの大切さ」竹内琴音＝旭ヶ丘４

▽**佳作**　北村純恋＝日野５　坪井莉里＝旭ヶ丘６

◆中学生の部

▽**最優秀賞**　「きっかけ」長谷川璃子＝東３

▽**優秀賞**　「自分の故郷を大切にする」三木愛華＝相森２　「一緒に勇気を出そう！」中澤りん＝相森２　「人との関わり」近藤陽斗＝常盤２

▽**佳作**　草彌漣＝相森１　藤岡章枝＝相森２　傘木愛弥＝墨坂１　茂木稀生＝東２　山岸桃己＝東３

◎県コンテスト

◆小学生の部

▽**入選**　三浦隼人＝豊洲４

◆中学生の部

▽**最優秀賞**　近藤陽斗＝常盤２

▽**入選**　長谷川璃子＝東３　中澤りん＝相森２

平成30年度「社会を明るくする運動」須高地区作文コンテスト

平成30年度、須高地区作文コンテストが実施されて、一月二十七日（日）に表彰式が行われました。今年度は、三浦隼人さんと長谷川璃子さん、近藤陽斗さんの作文を紹介します。

小学生の部　最優秀賞

あいさつの力

豊洲小学校四年　三浦　隼人（はやと）

「元気なあいさつをしていて、すてきだね。」たんにんの先生がほめてくれました。ぼくはそれがとてもうれしくて、また次もたくさんあいさつをしようと思っています。

「ぼくは、いつからあいさつをしているのだろう。」と考えてみました。お父さんとお母さんに聞いたら、しゃべり始めたころに真ねをして、あいさつをするようになったようです。ぼくは全然おぼえていないけれど、その大切さまでは分かっていなかったと思います。

今ぼくは毎日朝起きてすぐに「おはようございます」とあいさつをしています。また、ごはんを食べる時には、「いただきます」や「ごちそうさまでした」のあいさつを必ずしています。夜ねる時には、「おやすみなさい」のあいさつもしなかったことはありません。ぼくにとって、あいさつをすることはとても自然なことです。

あいさつには、自分の気持ちがこめられていて、あいさつをするとみんなが元気になったり、みんなが気持ちよく生活することができたりすると思います。ぼくの家族は、毎日自然にあいさつをしています。当たり前にあいさつをしているので、特別なことだとはあまり思っていませんでした。でも、あいさつをしない毎日を考えると、もったいないと感じています。

三年生のとき、豊洲小学校の児童会で「あいさつ達人」に選ばれたことがあります。これは、毎日学級内で一番あいさつをしている人におくられるしょうです。ぼくはいつもどうりにあいさつをしていただけなのに、周りのみんなに「すごいね。」と言われて少しおどろいてしまいました。自分があいさつをすると友だちもあいさつを返してくれるから、自分から進んであいさつをすることを続けました。そうすることで、学級のみんながとてもたくさんあいさつをしてくれて自分もうれしい気持ちになります。

ぼくは、まだ知らない友だちとなかよくなるためにも、元気よくあいさつをするようにしています。自分からあいさつをすれば、みんなともっとなかよくなれるし、たくさん友だちがふえると思うからです。

今、はんざいや戦争が起きている国もあって、ぼくと同じ小学生の子どもたちも食べるものがなくて困っていると、テレビのニュースなどで聞いたことがあります。あまりなかよくない国でも、一人ひとりがあいさつをすることで、なかよくなっていくと思います。なぜなら、あいさつをすると気持ちがよいし、その一言からそのあとの会話も生まれやすくなると思うからです。

ぼくは学校のみんなだけではなく、地いきの人たちにも、自分から進んで気持ちの良いあいさつをして、みんなが楽しくくらせるようにしたいです。ぼくはこれからも「あいさつ」を続けて、あいさつの力を大切にしたいと思います。

中学生の部　最優秀賞

きっかけ

東中学校三年　長谷川　璃子（りこ）

みなさんは、自分からあいさつをしていますか。私があいさつについて深く考えたのは、「おかえり」この言葉がきっかけでした。

私は小さい頃、自分から相手に話しかけることが苦手で、それは自分のコンプレックスでした。自分からあいさつをしようと思ってもなかなか勇気が出ず、友達にさえ「おはよう」ということができませんでした。

そんなとき、私にある出来事が起こりました。私がいつも通り帰宅しようとしていると、おじいさんが庭の手入れをしていました。もちろん私が〝自分から〟あいさつなどできるわけもなく、その前を通り過ぎようとすると、「おかえり」と、声をかけられました。その時は、まさか声をかけられるとは思ってもいなかったので、黙っておじいさんを見ることしかできませんでした。そうしておじいさんは、また庭の手入れをはじめました。

家に帰ったあとは、とにかくもやもやしていました。自分からあいさつをできなかった後悔や返事ができなかったもどかしさなどで頭がいっぱいでした。

そこで、そのおじいさんと仲の良い祖母に相談してみました。祖母は、昔からあの人はすごく子供好きで、優しい人なんだということを教えてくれました。そして、私のコンプレックスを知っていた祖母は、「一度でいいから自分からやってみなさい」と言ってくれました。

それからというもの、おじいさんに会う度に、自分から「こんにちは」とあいさつができるようになりました。最初は少し恥ずかしかったし、緊張も

したけど、おじいさんがにこにことあいさつを返してくれるので、それがすごくうれしくて、また明日も頑張ろうと思えるようになりました。

そして、おじいさんに会ってからしばらくたって、そろそろあいさつをするのがあたりまえになってきた頃、ふと、「おかえり」と言われたことを思い出しました。あいさつに慣れるまでの期間で何回か言われたけど、自分からあいさつをすることばかり考えていたので、そんなに気にしていませんでした。でも、「おかえり」というのをよくよく考えてみると、どう返せばいいんだろうと思うようになりました。たしかに、家族に対して「ただいま」や、「おかえり」と言うのは、日常的にあたりまえだと思います。でも、親戚でもない近所のおじいさんに言われた「おかえり」は、「ただいま」と返すのは何か変だと感じました。

そこで、また祖母にどう返せばいいのか相談してみました。すると祖母は、「ただいまでいいでしょ。迷って何も返せないほうが、よっぽど相手に失礼なんだから。」と言いました。たしかに、何も返さずにそのまま通りすぎるのは、よくないと思います。でも、「ただいま」というのはすごく言いづらいから、何か他の言い返し方はないかと考えました。

そう考えはじめて間もなく、いつも通りの帰宅途中、その日遊ぶ約束をしていた友人が走ってこっちに来ました。その友人と一緒に家に向かうと、あのおじいさんがいつものように庭の手入れをしていました。そして、「おかえり。今日は友達と遊ぶのかい。いってらっしゃい」と、声をかけてきました。すると友人が、「ただいま。おじいさんもお仕事頑張ってね。いってきます。」と返事をしました。その友人はすごく明るい性格だということは知ってましたが、その返事がすぐにできるとは思っていなかったのですごく驚きました。でも、その一言で、すごいな、私もあんなふうに返せるかな、と思うようになりました。

中学三年生になった今でも、その友達のようなあいさつはできていません。でも、今まで怖がってできなかったことも、何かきっかけがあればできるようになる。そう思えた出来事でした。

まだ「おかえり」の返事をしていないけど、私の中で何か変わったあの出来事は、忘れることはないと思います。もしかしたらずっと言えないかもしれないけど、そのきっかけを忘れずに、これからも自分からあいさつを続けていきたいです。

中学生の部　優秀賞

人との関わり

常盤中学校二年
近藤　陽斗（はると）

祖母がいつもする話の中に「今は人間関係が希薄になった。昔は近所の人の顔が見えたし、皆で子供達を見守って育ててたんだよ。よその家の子でも平気で叱りつける人が普通だった。」と言います。僕は、「そうなんだ。」と適当に返事をしていましたが、〝社会を明るくする運動〟とは、と考えると、祖母の言葉が何か響いてきました。そして真っ先に父の顔が浮かんできました。僕の父は町の役員・育成会・その行事の中でソフトボールのコーチなど、子供達と多く関わっています。とても声が大きく、朝の挨拶でも、子供達が下を向いていると、いつもの声で「おはよう。」と声をかけ、父なりのコミュニケーションをとっています。ですが、ルールを守らなかったり、話を聞かない子がいると誰にでも遠慮なく注意をし、叱りつけます。もちろん僕の友達も例外ではありません。なので僕は、「お前のお父さん怖いな」とよく言われます。そんな時は、「俺にはもっと怖いんだよ。」と言うと皆は笑ってくれますが…やはり叱りつける父が嫌で、「やめてよ!!僕の立場も考えてよ。」と言ったことがあります。すると父は、「言いたい人には言わせておけ。悪いことは悪いと言わないと、皆を守ることが出来ないし、ただ優しいだけじゃダメなんだ。ルールを守る事を教えることが大事なんだ。」と強い口調で返されました。その時は分かってくれない父を見て泣きそうになりました。本当は、父は悪くないと自分でも分かっていましたが、ため息が出ました。

そしてお祭りの日のことです。何だか気になって父を見ていると、小さい子には「おじちゃん、おじちゃん。」と慕われ、皆に囲まれニコニコです。「陽斗君のお父さん」と呼ぶ声も何回も聞こえてきました。そして、お祭りの時に注意されていた子も「はーい」と気にしない様子で返していました。僕の心配は何だったのだろうと思いました。父は、注意し、叱ることもありますが、周りをよく見ています。その子が習い事をしていると聞くと、「頑張ってるな。」と声をかけ、「学校はどうだ?」とも話しかけています。とても楽しそうに思えました。そんな様子から、父が言った〝皆を守る〟とは、憎まれ役になっても、ルールを守ることを伝えてこそ出来るのだと思いました。そして父なりのフォローをしていることに感心しました。この父の行動が、わずかでも社会を明るくする運動につながっているのではないかと思いました。

そして、これからの僕達に何が出来るのか?今は、スマートフォンやゲームなど一人遊びで楽しく過ごせます。人との関わりが面倒になっています。でも、それでは人の声も、気持ちも見て学ぶことも出来ません。まず地域の行事に参加し、人と社会と関わっていくことだと思います。

僕達の中学校では、〝地域とのつながり〟をテーマの一つに、アルミ缶回収を行っています。生徒一人ひとりがご近所に声をかけ、お願いをしてアルミ缶を回収する活動です。挨拶や、何気ない会話からつながりが広がっていけたらという考えからです。まずはこの活動を通して人とつながっていけたらと思います。犯罪はすぐには無くならない。でも、このような活動を心がけていけば、犯罪が少ない明るい社会になっていくと、僕は考えます。

人は人の中で

元保護司　吉田　悟

私は、平成三十年十一月九日に任期満了となり、保護司を退任しました。

保護司としての十四年間に受け持った対象者は十三人で、十代から五十代まで幅広かったですが、三十代前の人が多かったです。私は教職を退職後、須坂市教育委員会で教育相談員や家庭児童相談員を八年間勤めていたこともあって、須高地区の若者についてはかなり把握していました。それで、対象者の初回面接からわりと気楽に話せたように思います。

A君は、来訪の初めごろは、肩ひじ張っていて、玄関で靴は脱ぎ散らかし、部屋に入っても帽子も取らずすぐに胡坐をかいていました。毎回、妻が靴を直して置き、私とも打ち解けて酒の話しをするようになるうちに、いつしか靴をきちんとそろえ、部屋に入るとすぐに帽子をとるようになってきて、私に褒められると優しい顔になって照れていました。

B君は、玄関で「お願いします」と大声で挨拶し、靴もきちんと揃え、部屋に入ると「仕事の帰りで服が汚れていてすみません」と言い、私の話も正座をして聞いていました。「えらい礼儀正しいな！」とほめると、「社長に『人の家に行ったときは礼儀正しくしろ』といわれた」とのこと。暴力事件で（罪名にはなかったが麻薬もやっていた）刑務所に行って来たとは思えぬ程素直な対応です。ただ、給料二十万円余りは友達におごることもあって、ほとんど飲んでしまっていました。それでも一年後には、毎月数万円は残すようになり、母親も少し安心していました。その他、よく嘘をつき友達や親からも信用のないC君や、数か月毎に新しい女性と付き合い飲酒運転もしたD君等々。それぞれの特徴はありましたが、いずれも仕事だけは真面目に勤め「二十歳過ぎて馬鹿やってられねえからな」と、しだいに心に決めるようになっていたことは嬉しかったです。

一方、須高地区作文コンテストにもかかわらせていただき、賞状の文案を作成したり、毎年の作文の出来不出来に一喜一憂したりしながらも、児童・生徒達が文章を書くことを通して、その子の心がより豊かに形成されていくことの素晴らしさを感じました。

このように今顧みると、対象者の多くが、家族とのつながりや友達との交際、会社の人達との人間関係の中で悩み努力しながら、次第に変化し成長してきたことを思います。こうした中でわたしは、『**人は人の中で生かされている**』という言葉を現実にたびたび実感させられました。また、児童生徒の作文の中にも地域の人たちや学校の友達との関係が多く綴られており、『**人は人の中で生かされている**』ことを感じ取れました。そして、私もまたいつとはなしに多くを学ばせていただいてきたことをも感じています。有り難いことでありました。

この十四年間、保護司活動を有意義にやらせていただいたことに対して、対象者や保護者の方々をはじめ、ご指導いただいた観察官や保護司の皆様、また、日々ご支援頂いた事務局の皆様に改めて感謝を申し上げます。

新米保護司、奮闘中

保護司　澁谷恵津子

辞令を受けて半年ほど経った頃でした。突然、観察官から生活環境調整の依頼の連絡があり、いよいよ対象者を受け持つことになることに、気持ちが張りつめ、身が引き締まる思いでした。

引受人のところへ二度ほど往訪し、三度目の往訪を前にして、対象者であるAさん（三十代男性）の仮釈放が決まり、予定よりはやくAさんと面接することになりました。不安でいっぱいだった私に、「息子のように思って接したらいいんじゃないの。」とアドバイスしてくれた先輩保護司の言葉がありがたく、少し気持ちが楽になりました。

始めての面接はAさんに助けられました。明るく、礼儀正しく、素直に自分から話をしてくれるAさんは〝好青年〟という印象で、いつのまにか緊張感はほぐれ、自然となごやかな雰囲気になれました。

Aさんは、今後の目的がはっきりとしているので、とにかく働きたい、働かなければと就労意欲が高く、自力で仕事を見つけ、二度目の面接の前に働き出しました。資格があることで、入社面接ですぐに採用になり、仕事もおもしろい様子。その資格は刑期中に取得したとのことで、Aさんの努力と生活態度の良さを認めて労い、無理せず仕事を頑張るよう励ましました。

約束の時間よりいつも早めに来訪し、すすんで話をしてくれるAさん。「どうしたらいいか。」と尋ねてくることも多く、いっしょに考えながらも、ほとんど自分からこうしたいと答えを出してくれるので、本人の思いを受けとめ、支持しながら進めてきています。

Aさんから質問されたことは、「調べておくね。」と答えたのち、研修で渡された参考資料を開き調べていくと、研修の時は何のことだかさっぱりわからなかったことが、〝ああ、このことか〟とはっきりと理解でき、また、「何でも聞いてください。同じことをくり返し聞いてもらってもいいですよ。」と快く言ってくださった観察官の言葉がとても心強くて、事実、何度も電話してしまいました。

自分の都合のいい言い方で申し訳ないですが、私にとって、始めて受け持った対象者がAさんでほんとうによかったと、Aさんとの出会いに感謝し、いっしょに学ばせてもらっているところです。

「家族のありがたさをつくづく感じた。」「これ以上家族に迷惑をかけられない。」「二度とくり返さない。」と言い切ったAさんの言葉を信じ、これからも寄り添っていけたらと思っています。Aさんのこれからの人生に幸多かれと祈りつつ。

新米保護司、まだまだ駆け出したばかりです。

第64回 長野県更生保護大会

平成三十年十月十八日、第六十四回長野県更生保護大会が、須坂市文化会館メセナホールにおいて開催されました。当地区での開催は、平成十年以来二十年振りとなりました。式典に先立ち㈲野口石油代表取締役社長で福岡県協力雇用主会会長の野口義弘氏によるご講演をいただきました。

また、以下の方々が表彰されました。

法務大臣表彰
高津孝道
関東地方更生保護委員会委員長表彰
荒巻照子　齋藤友吉　菊池健造
野平芳一　三木一徳
関東地方更生保護委員会委員長感謝状
竹中節子（更生保護女性会）
関東地方保護司連盟会長表彰
西原ちえ子
長野県知事表彰
吉田　悟　福本　卓
保護観察所長表彰
南澤好夫
保護観察所長感謝状
林　豊美（更生保護協力事業会）

受賞者の皆さん おめでとうございます

受付係

第六十四回長野県更生保護大会は、受付係として、来賓、受賞者の受付をさせていただきました。二回の打ち合わせがありましたので少しは安心しました。当日は、観察所の職員の皆様に適確な指示を頂き、受付から案内係へとスムースに出来ました。

大会が終わると、受賞者の皆さんの表彰状を間違えのない様にと気を配り、筒に入れお渡しすることが出来ました。

会場係

大変貴重な講演・式典の開催される会場係と警備誘導係を、保護司、更女及び事業主会の十名で、保護観察所の職員と連携を取りながら、役割を分担し業務に当たりました。

業務内容は、講演、式典の配置を確認しつつ、ステージの設営・模様替え、来賓指定席の設置・案内、受賞者のステージへの誘導・階段介添え等の業務や、会場内外の掲示板等掲示、警備誘導の会場見回り・緊急時の避難誘導等の業務に当たりました。

担当の皆様のご支援ご協力により、式典等がスムースに進行出来ましたことを心から感謝しております。

案内係

案内係は、講師・来賓・役員・受賞者の案内、誘導などが主な役割でした。当日は、観察所職員並びに保護司会、更女、事業主会の会員の協力をえて、無事に果すことができました。改めて感じたことは、事前の綿密な打合せとリハーサルが如何に大事であるかということです。いずれにしても各係が連携して運営し、大会を盛会裡に終えることができたことは、大きな成果であったと思います。

接待係

準備の時から観察所、保護司、更女が大会の成功に向けて協力してきました。みなさんがそれぞれの場所で、役割をはたしてくださいました。特に心がけたことは、短時間の中での来賓方への接待と食事、受賞者への気遣いでした。来賓の方からは、地元の和菓子が好評でした。普段は顔を合わせたことがない人達とも連携がとれ、観察所の方々に、その都度アドバイス頂けたおかげで安心して、スムーズに係の仕事ができました。

駐車場係

大会前より何度か観察所の担当者を交え、どのように対応したら良いのか？を検討してきました。来賓の車は何台来られるのか？バスは何台か？乗用車は何台か？来場予定の申告を元に駐車場の割振を行い万全の体制で準備しました。当日は朝から駐車場の案内看板を設置し係の人達とは全員無線で連絡が取り合えるように準備をし十時半からは早くもお客さんが見え始め一台づつ案内をし式典間近になると来賓の方達も見え、ますます車の来場も増えましたが事前の準備と打ち合せが功を奏し大きなトラブルもなく案内が出来た事に係員一同安心して大会行事に参加出来ました。

物品販売係

二月二十二日の理事会以来、その準備に理事をはじめ保護司会皆様と共に力を合せ進めて参りました。それぞれの皆様も担当部所につきその責任をはたされ当日を迎えました。

物品販売係はリンゴ、村山早生ゴボウ、シャインマスカットなど販売をいたしたところでありますが大変評判が良くすべて完売をいたしました。各団体のご支援、ご協力のおかげで大会が成功裡に終わり感謝申し上げます。

保護司の異動

◎退任保護司
豊田清寧（平成三十年五月二十四日付）
吉田　悟（平成三十年十一月九日付）
長年のご活躍に心より感謝を申し上げます。

◎新任保護司
黒岩隆弘（平成三十年五月二十五日付）
篠塚真一（平成三十年五月二十五日付）
嶋倉崇雄（平成三十年十一月十日付）
今後のご活躍をご期待申し上げます。

あとがき

巻頭言にご寄稿いただきました小林聖仁長野県保護司会連合会会長様に心から感謝を申し上げます。

今年度は、第六十四回長野県更生保護大会がメセナホールで開催されました。また、以前より課題になっておりました「更生保護サポートセンター」設置が決まり、これからは保護司会の活動拠点としてスタートします。

（総務部）